

という人がたくさんおるとお思いますので、こういったところも市が窓口になって進められたらどうかというふうに思っております。

今日は、これから先の対馬の観光と資源の保護という点で質問をさせていただきました。私も30年間、対馬市議会議員としてやってこらせていただきましたけれども、大した力にはならなかったと思いますけれども、また何かありましたら有効活用してください、ひとつお願いをしておきたいと思います。どうもありがとうございます。

○議長（初村 久藏君） 作元義文君の質問が終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からいたします。

午前10時49分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） おはようございます。5番議員、新政会の坂本充弘でございます。

今定例会においての一般質問が3日から始まり、最終日となりました。あとは、私と午後からアンカーの波田議員でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

2月26日に岩手県大船渡市で発生した山林火災は延焼が続き、今日、発生から7日となり、消失面積はおよそ2,900ヘクタールに拡大しているということであります。市の面積の8%以上に上っていて、地上と上空から2,000人規模による消火活動が続いているということであります。市内の避難所には12か所に約1,200人が避難し、避難所以外の場所にも約2,800人が身を寄せているそうです。

一方、市によりますと避難指示が出ている住民のうち、避難している人などから市への連絡がないため所在を把握できていない人は少なくとも570人ほどいるということであります。

総務省消防庁の要請を受け、14都道府県の消防から緊急援助隊として542隊、2,016人が派遣され、自衛隊や警察のヘリも出動し、上空からの放水や火災状況の確認を行っているということであります。一刻も早い火災の鎮圧となるよう祈るばかりでございます。

それでは、通告に従い、質問に入らせていただきます。

1件目は、漁業振興対策について、2件目は、国県道のトンネル内ラジオ放送について、3件目は、イベント等における障害者専用の駐車場確保についてでございます。

以上の3件についてお尋ねをいたします。

1件目の漁業振興対策についてでございますが、これは昨日質問された船越議員と先ほどの作

元議員のほうからもありましたので、少し重複するところがあると思いますが、御了承願いたいと思います。

御承知のとおり、対馬の漁業は衰退の一途をたどっているといっても過言ではありません。中には、一本釣り漁業や延縄漁業で高級魚・ブランド魚など漁獲される漁民の方もおられますが、ごく一部であります。そして、クロマグロの漁獲規制が始まった後から、追い討ちをかけるかのようにスルメイカの歴史的な不漁は今も続いています。

そのような中において、国・県・対馬市においても経営を維持できるよう漁業用燃油をはじめ補助金や助成金を投じていただいているところではありますが、今後においても現行補助金の維持と希望の光となるような新規助成補助金制度を設立していただけないものかと思っております。

この件につきましては、昨日、船越議員からの質問にも比田勝市長の答弁のとおり、本当に厳しいものがあるかと思えます。

漁協は、漁業者による共同組織として、組合員のために販売・購買等の事業を実施するとともに、漁業者が所得向上に向けて主体的に取り組む浜プラン等の取組をサポートするなど、漁業経営の安定・発展や地域の活性化に様々な形で貢献しています。また、漁業権の管理や組合員に対する指導を通じて、水産資源の適切な利用と管理に主体的な役割を果たしているだけではなく、浜の清掃活動、海難防止、国境監視等にも積極的に取り組んでおり、漁村の地域経済や社会活動を支える中核的な組織としての役割を担っています。

全国の漁協については、令和3年（2021年）3月末時点の組合数は881となっていました。が、合併が進み令和5年（2023年）3月末時点の組合数は864となっております。漁業者数の減少に伴って組合員数の減少も進んでおり、依然として小規模な組合が多い状況にあります。この対馬市も同様の状況であるといえます。

漁協の中心的事業である販売事業の取扱高は減少傾向にあり、今後とも漁協が漁業・漁村の中心的事業として漁業者の所得向上や適切な資源管理等の役割を果たしていくためには、引き続き、合併等により組合の事業及び経営の基盤を強化することはとても重要です。もちろん合併については、組合員の将来のためにするものですから、組合員の相互理解と同意が必要であります。

漁業就業者数の減少、漁業者の高齢化に加え水揚げ減少、漁民を助ける制度ができてそれを補佐する漁協が危機的状況になりつつあります。このような状況下で、今後の総合的な漁業振興対策、また、これから漁協合併についての協議が進められていくと思われますが、その合併の支援策についても伺いたします。

クロマグロの件ですが、水産庁は2025年の太平洋クロマグロ漁獲枠国内当初配分について、30キロ未満の小型魚を前年比35.2%増の4,383.3トンに拡大すると決定し、発表され

ました。

長崎県は、小型魚の漁獲量が全国第1位で、都道府県が管理する沿岸漁業では本県に小型魚879.9トンが配分となりましたが、県内でクロマグロの漁の承認を得ている漁船は2,400隻以上で、漁業者の数を考えるととても十分ではありません。他県の1隻当たりの比率から考えるとまだまだ不足している状況だと思います。

大型魚については今回見ておりませんが、クロマグロの漁獲規制は現在どのような状況であるのか、今後、県や国に対してどのような取組・要望を考えてあるのか伺います。

2件目は、国県道のトンネル内ラジオ放送の整備についてでございます。

この件につきましては、私も国県道のトンネルについてはいろいろな規制があるということは聞き及んでおります。しかし、今回は市民の声ということで取り上げさせていただきました。

対馬市のトンネル内は現在ラジオ放送は巖原トンネル以外は受信できない状況だと思われます。ただし、電波の状況がよければ短いトンネルが受信できるところもあるようです。御承知のように島内にはたくさんのトンネルがあり、その総延長はかなりの長さになると思います。普通にラジオを聞いていてもトンネルに入ると雑音になってしまう、災害や緊急事態が発生したときの対応のこともあり、長いトンネルから優先的に整備すべきだと思います。

島内は車での移動手段しかなく、レンタカーを利用している観光客もおり、ドライブを楽しんでもらうことで観光事業としての立場でも整備ができないものか、県や国に対し国境離島として要望ができないものか伺いたいと思います。

3件目は、イベント等における障害者専用の駐車場確保についてでございます。

今年の1月3日、峰町のシャインドームみねで「二十歳を祝う会」が開催されました。二十歳をお祝いする会場で、家族の晴れのお祝いに駆けつけられましたが障害者用の駐車スペースが確保されていませんでした。とても残念でなりません。

私は、駐車場の中において、職員の皆さんが朝早くから出てこられて来賓またはその御家族の方がずっと車で来場されましたけれども、本当に職員の方は一生懸命、駐車場の誘導に専念されておられました。全スタッフ一生懸命やられておりましたことに本当に感服したわけですが、朝早く寒い中から本当に一生懸命やってこられたことに対して敬意を表したいと思っております。

今後のまたイベント等における障害者専用の駐車場確保については、ぜひお願いしたいと思っております。

以上でございます。御答弁よろしく願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 坂本議員の質問にお答えいたします。

3点目のイベント等における障害者専用駐車場の確保につきましては、後ほど教育長より答弁

いたしますので、私のほうからはその他の質問について答弁させていただきます。

初めに、1点目の漁業振興対策についてでございますが、本市は豊かな漁場に恵まれた漁業が基幹産業の一つであり、市民生活や地域経済を支える重要な役割を担っております。

しかしながら、近年は漁業者の高齢化や後継者不足、魚価の低迷、燃油価格の高騰、水産資源の減少など、様々な課題に直面しており、漁業の振興は喫緊の課題となっている状況でございます。

本市では、漁業者の皆様が安心して漁業を継続し、持続可能な漁業を実現するための対策を推進しております。漁業経営の安定化において、燃油高騰時には漁業者の負担軽減を目的とした燃油価格高騰対策支援事業を実施しているところでございます。さらに、漁船や漁具の導入・改良に必要な資金の利子を補給することで、漁業者の経営改善を支援し、加えまして、漁業者の災害リスクに備えるため漁業共済への加入を促進しております。

一方、水産資源の保護・育成にも力を入れており、魚介類の産卵場所や生育場所となる藻場を再生し、水産資源の回復を図るため地域住民や関係機関と連携の下、効果的な藻場再生技術の開発や普及に取り組むとともに、ヒラメやサザエなどの種苗を放流し、水産資源の増大を図っているところでございます。

その上で、放流効果の検証と放流技術の改善を重ねることで、資源管理の高度化を追求し、持続可能な漁業の実現を目指しております。

さらに、漁業者の育成・確保においては、新規漁業者や漁業後継者の育成・支援のための研修や資金援助を行い、漁業技術や経営ノウハウの継承を支援しているところでございます。

漁協合併は、漁業者の減少や漁業経営の効率化などの課題に対応するために、全国的に進められている取組であります。本市においても、漁協の合併は避けて通れない問題であると認識しております。

このため長崎県漁協合併推進室を中心として、本市におきましても、上県町漁協と伊奈漁協が令和5年4月に合併いたしました。

また、一部組合においても合併に関する勉強会が行われております。中でも、各漁協が所有する荷さばき施設、製氷施設、冷凍・冷蔵施設等の老朽化や能力低下等により、更新時期を迎える施設が多数あり、施設の改修・更新には、近隣漁協と連携した機能の集約・効率化が前提であります。

これらの補助事業計画の際には、地元要望に迅速に対応すべく、スムーズで効率的な事業実施となるよう体制の強化に努めてまいります。

また、漁協合併に対する支援策として、長崎県においては、地域を担う漁協機能向上支援事業を活用して、中小企業診断士や税理士等による漁協財務改善支援、漁協合併計画策定支援があり、

本市においても、合併推進につながる支援をしてまいります。

次に、クロマグロ漁獲規制についてでございますが、クロマグロは太平洋を広範囲に回遊する回遊性漁種であり、国際的な協力が得られないことには、適切な資源管理は不可能でございます。

そのため、中西部太平洋まぐろ委員会——俗にWC P F Cと呼ばれておりますけれども、ここと全米熱帯まぐろ類委員会という2つの国際機関が中心となり、資源評価や漁獲規制に関する議論が行われております。

その中で、日本における漁獲上限として30キロ未満の小型魚については、2015年以降、2002年から2004年の平均水準8,015トンから半減の4,007トン、30キロ以上の大型魚については、2022年以降、5,614トンとされておりました。

しかしながら、2024年11月28日から12月3日に開催されたWC P F C年次会合において、資源量が回復基調にあるため、2025年以降の日本のクロマグロ漁獲枠は大型魚で2024年比1.5倍となる2,807トン増の8,421トン、小型魚で1.1倍となる400トン増の4,407トンに拡大しております。

また、国内の配分方針は、小型魚は平成22年から平成24年の平均値、大型魚は平成27年から平成30年のうち海区別及び採捕の種類別の最大値となっております。

長崎県内においては、県南・県北・五島・壱岐・対馬の5海区に分類されており、現在の令和6年管理年度における対馬海区への配分量は、繰越配分及び追加配分を含めると小型・大型合わせて約440トンとなっており、全国の約9%、県内の約42%を占めております。

また、令和7管理年度においては、令和6年12月11日の水産政策審議会にて、国から県への当初配分として、小型魚1.11倍、大型魚を1.35倍で配分されることが決定いたしました。

今後、長崎県内の海区区長会において議論され調整が行われますが、漁協間の連携調整を図りながら、対馬海区全体で消化率の向上に努めることが重要であると考えております。

市といたしましても、皆様の意見を聞きながら、必要に応じて対策を検討してまいります。

次に、国県道のトンネル内ラジオ放送の設備についてでございますが、まず、国県道のトンネル管理につきましては、対馬振興局であることを御了承願います。

御質問の件について、対馬振興局に確認したところ、対馬市内の国県道には55本のトンネルが存在し、この中で唯一、厳原トンネルのみがラジオ受信ができるとのことでございます。

トンネルを施工する際には、火災その他の非常の際の連絡や危険防止、事故の拡大防止のための非常用施設を設けるよう、道路トンネル非常用施設設置基準があり、この基準の中で非常用施設として、通報・警備設備、消火設備、避難誘導設備、その他の設備と分類されております。

ラジオ放送設備は、その他の設備に該当し、設置目的としては、車内のトンネル利用者などが災害等が発生した際に、道路管理者からの情報を受信できるようにするための設備でございます。

これらの設備を設置する基準は、そのトンネルの延長と交通量に応じて定められており、本市の場合、厳原トンネルだけが必要に応じて設置できる施設となるため設置しているとのことでございます。

今後、市といたしましては、現在の設置基準での整備は困難であると考えますので、基準の見直しが検討できないか、県と協議したいと考えております。

私のほうからは、以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 坂本議員の質問にお答えいたします。

本年1月3日に開催いたしました「二十歳を祝う会」におきましては、障害がある方がいらっしやれば、入口付近に駐車頂く等の体制は整えておりました。

しかし、議員のおっしゃるとおり、障害者専用の駐車スペースの確保や表示などの対応が十分にはできておりませんでした。

また、シャインドームみねのほか、教育委員会が所管する施設としては、各地区公民館や体育施設がございますが、障害者専用の駐車場の設置には至っていない施設が多いのが現状でございます。

今回、議員から御指摘いただきましたとおり、今後は、対馬市教育委員会で実施するイベントはもとより、教育委員会の所管する施設を利用いただく団体等へもお願いさせていただき、障害者専用の駐車スペースを確保するとともに、その場所を明確に表示するよう努めてまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） どうも御答弁ありがとうございます。

まず、1点目の振興対策についてでございます。

市長の答弁のとおり、現在、水産業においてはいろいろな補助をしていただいているところがあります。そして、上県町漁協と伊奈漁協についてはもう合併が済んだということで報告を受けましたけれども、今後、また次の合併がどことは申せませんが、また将来あると思いますので、よろしくお願いいたします。

この漁協の先ほど申しましたように、本当に漁協の、今、組合員にとりましては死活問題で、先ほどの作元議員のほうからもありましたように、小さい魚をやっぱり捕られてしまって地元漁民が生産できないようなそういう状況もどんどん上がってきているということで苦しい状況であります。

そして、マグロについても今までヨコワ、単位で3キロ、4キロぐらいのやつをずっと前は捕獲していたんですけれども、マグロの規制が、私が漁協に在職していたときから規制がかかって、

生産されないような状況になって、漁民も苦しい状況が続いてきたわけです。

この合併に対しては、いろいろこれからあると思いますけれども、マグロの規制は市のほうで本当に何もできないかも分かりませんが、県や水産団体を通じて、本当に少しでも漁獲枠の回復といいますか、増枠に当たってほしいなというふうに思います。大変だということは承知しているんです。市長の力で何とか、またその辺も頑張ってくださいなと思っております。

船越議員からも、昨日、漁協の補助金関係でいっぱいありましたけれども、漁協だけではなくて第1次産業、これもう本当に大事な産業でございますので、その中でも対馬はやっぱり漁協と対馬農協さん、そして森林組合さんありますけれども、やっぱり全体の中をこう見渡していただいてどこか補助できるところがないか、これからも手探り状態で頑張っていってもらいたいと思います。

私は、産業建設常任委員会として対馬農協さんと森林組合さんと意見交換会をさせていただいたときに、やっぱりそういう状況で第1次産業の補助金について、ぜひ継続と、それから、できれば少しずつ増額と運賃関係も頑張ってくださいということで、委員会のメンバーと一緒にその状況を聞かせていただいた状況でございます。

そして、補助金につきましては、市長のほうから御答弁いただきましたけれども、このマグロの定置網関係に入ってくるマグロについて、これを避けるための装置があるような情報をちょっと私耳にしたんですけれども、そういう設備というか機械というか、そういうものがあるんでしょうか。部長さんでもいいですので、もし分かれば、ちょっと教えていただきたいんですけれども。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

先ほど言われました侵入防止といいますか、そういった大小の区分といいますか、そういったものについては技術的には確立されているようであります。ただ、非常に高価であると思われるので、その辺については必要性を見ながら、漁業者の皆様が要望されるようであれば、積極的に活用に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 今のその点については、補助金等の整備についてはもうできているということでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

その点については、まだうちも十分な情報を持ち合わせておりませんので、個別事案として相

談していただければ、また水産庁、それから長崎県と協議を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 分かりました。ありがとうございます。

最後に、この件については市長にお願いしたいんですけれども、県のほうに要請、また、国のほうに要請するときに少しでも頑張ってもらいたいというところではありますが、市長、その決意をもう一回述べてもらえたらと思いますが、よろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このクロマグロの規制につきましては、先ほども答弁いたしましたように、市といたしましてできる権限は今のところありませんので、県を通じて、対馬漁民の皆様の声为国へつなげていくということで一生懸命努力してまいりたいというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 分かりました。ありがとうございます。

それでは、2点目のトンネル内ラジオ放送について、もう一回お尋ねをいたします。

この国県道のトンネル内のラジオ放送については、先ほどの御答弁で分かりました。

この規制については、トンネルの長さについてもいろいろあると思っておりますが、まず、対馬の中で一番長いトンネル、今、佐須坂トンネルですか、これは国道じゃなくて県道のほうになると思うんですけれども、今どのぐらいの長さのトンネルだったのでしょうか、建設部長、お分かりですか。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山 歩君） 佐須坂トンネルの延長でよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）佐須坂トンネルの延長が1,867メートル、これ島内で一番長いトンネルとなっております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 島内で一番長いトンネルでこの約1,800メートルですよ。

このトンネルの規模といいますか等級といいますか、これはどのような等級になるんでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山 歩君） 先ほどの市長の答弁でありましたとおり、対馬市島内において、今の厳原トンネル、こちらがA等級ということで、このA等級は島内、この厳原トンネルのみでございます。

あと、この佐須坂トンネルにつきましては、延長が長いんですけれども、交通量の関係から今はB等級ということになると思います。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 分かりました。

このトンネルもこの島内幾つもあります。それで、私ども上地区のほうから巖原に来るときにも何回でも通ってくるようになるわけなんですけれども、やっぱりそのたびにこういう状況でラジオが聞けなくなるということで、市民の方からもよくこの話は聞くんですけれども、私自身もそのようには思っております。そして、観光客もラジオはどうか分かりませんが、このラジオを聞くということで、管理者が直接災害があったときに連絡することができるということで、大変有意義な手段ではないかなということで思っております。

本土のほうの規模と、全然、対馬市内のトンネルは短いトンネルになりますので、私も鹿児島まで運転して行ったことはあるんですけれども、ものすごい長くて、今ではちょっと覚えておりませんが、何キロメートル以上あったような気がいたします。そういう長いトンネルになると、やっぱり気持ちも怖いときもありますし、車の交通量もトンネルの中といっても追い越しをかける自動車も中にはいるわけです。そのときはちょっと怖い目に遭ったような記憶もあるんですけれども、この対馬の中は短いトンネルばかりでそういう規制というものはないかもしれませんけれども、この国境の島、観光の島ということで、やっぱりこれから将来考えていただけたらなということで思っております。

この点については、もうここで打ち切りたいと思います。

3点目の駐車場の確保についてでございますが、この件については、私もそのとき招待されておりましたので出席をさせていただきました。この「二十歳を祝う会」だけではなくて、このときまたまそういうふうになったんですけれども、例えば国境マラソン I N対馬なんかのときに、普段はあそこの三宇田浜海水浴場の駐車場あたりは本部会場の施設が立ち並びますけれども、駐車場は舗装されていないところにされるわけですね。そのときには、普段駐車場として使っておりませんので、障害者用の表示なんかは作っていないんですけれども、臨時的にそういう会場をまた利用されるときには、パイロンなんかも利用して誘導できると思いますので、ぜひお願いしたいと思うんですけれども、1点ちょっとお尋ねしたいんですけど、峰町の陸上競技場には、その障害者用の駐車スペースは造ってあるんでしょうか、ちょっとお尋ねします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） お答えします。

今現在、体育等の施設では、峰町にはございません。今現在、市内で設定してあるのはですね

上県総合運動公園の駐車場、これがプールの駐車場に4台分設置してあるということです。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） ありがとうございます。この件については、教育委員会関係だけではなくて、これから全式典が開催されるイベント等においても、障害者は守ってほしいという気持ちがありますので、ぜひこれからもそういうイベント等、大きな式典等がある場合は、駐車場のスペースをぜひ造っていただきたいと思っております。

近年は空港、ターミナル、スーパー、金融機関、あらゆるところでこの障害者用の駐車スペースはもう造ってありますので、スポーツ大会のイベント等についても、ぜひ、それは実施をしていただきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

これで、今日の質問は、私は終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで坂本充弘君の質問が終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は、1時5分からといたします。

午前11時48分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。入江有紀君、船越洋一君及び小宮教義君から、早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、お疲れさまです。13番議員、政友クラブの波田政和でございます。1期4年間、今期の議会、任期最終の本会議一般質問となりました。思い起こしますと、議員として市民の皆様方から信託をお受けし、議会活動に取り組んでまいりましたが、市民の皆様方が納得いく答えを出せなかったのではないかと深く反省をしております。

次の世代の人材へ議員の役割を確実につなぐことが、現職議員の責任と考えますことから、前回の議会の質疑の中で、議会改革を求める意味で、次世代のために若い力の出馬を求めるとの発言をしておりましたが、なんと、対馬市議会始まって以来の若い人材の方々の挑戦を見聞きしたとき、とうとうその時が来たんだと感じております。私は先輩議員として、襟を正し、対馬改革にさらなる挑戦を決意するものであります。どうぞよろしくお願いいたします。

本題に入る前に、前回の質疑の中で、通称横町線の横町橋周辺整備の安全対策で早急な対処をお願いしていた件でございますが、緊急処置として町並みに調和の取れたカーブミラーを左右に設置していただき、御利用者皆様方が喜んでおられますので、ここで御報告をしておきます。あ